

クラス担任のための Career Guidance

2014 >> VOL.20

キャリアガイダンス 特別編集



クラスを活性化させる

自由に発言できる話し合いの作り方

生徒が安心して自分の考えを発言できる雰囲気を作れると、クラスが活性化されるもの。そこで今回は、自由に発言できる話し合いの場作りについて考えてみたいと思います。

取材文 / 清水由佳(ライター・キャリアカウンセラー)

話し合いができないのではなく話し合いをさせていない!?

最近、大学生の新卒採用試験では、ディスカッションやグループワークを課す企業が増えている。民間企業だけでなく公務員試験でも同様の傾向があり、多くの学生が「苦手」と戸惑う。苦手意識を抱く最大の理由は、それまでの学生生活の中でディスカッション経験があまりないから。また、話し合いの場があったとしてもあまり積極的に発言せず、それで事足りてしまった学生も少なくない。

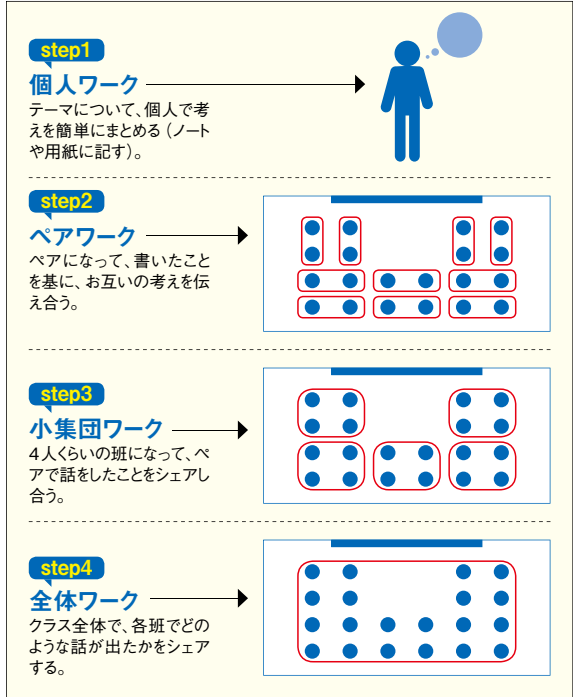
新しい学習指導要領では言語活動の充実がうたわれ、教科の中で説明、論述や討論を取り入れることとなったが、学校生活の中で他人と意見交換する習慣を身につけていくことは、いざ社会に出るにあたって非常に重要な経験だといってもいい。

隣の人との意見交換から段階を踏んで徐々に全体シェアへ

まず重要なことは、「教室形式をやること」だと福島先生。「思春期は特に、周囲の人にどう思われるかを非常に意識します。そんな生徒にいきなり40人の前で意見を言えというのが無理というもの。まずは、教室の単位を分割して、隣の人と意見を出し合うという小さな単位から始める。その次に班、そして全体へと、徐々にシェアをしていくことが大事です(コラム1)」

全員の意見を付箋などで貼り出していくのもいいだろう。そうやって全体で意見を発散していくと、最終的に多数決などで決まったとしても「話し合いのプロセス」が生徒全員に見える。全員が参加したという納得感もモチベーションも高まる。

コラム1 話し合いの進め方



コラム2 話し合いのためのグラドルール

- 「自分を尊重する」自分の考えを大切に、言いたいことを言う(言いたくないことは言わなくてもよい)。「他人を尊重する」聴く姿勢が大事。相手を尊重し、もしも反対意見がある場合は、批判だけではなく対案を出すように心がける。「話した内容はこの場限り」話し合いで出た内容は、その場だけのこと。ほかの時間や日常で、ここで話をもち出し引きずらない。

コラム3 振り返りのためのシート

話し合いの振り返りシート。振り返ることから上手な話し合いにつながります。振り返りポイント1: 「話し合いのグラドルールは守れましたか?」振り返りポイント2: 「今回の話し合いの活動全体を通して、あなたにとってできた点、および今後改善すべき点は何か?」振り返りポイント3: 「前回の話し合いと比べて進歩した点や気づき」

元千葉県・東葛飾高校教諭 福島毅先生。23年間、高校教諭として、生徒のモチベーションアップや自主的な活動を促す授業・クラス運営で活躍。現在はさまざまなワークショップのファシリテーターや大学でのキャリアデザイン講義など幅広く活動中。福島先生オススメ 話し合いの場を作るための参考図書: 『ファシリテーション入門』堀公俊著、日経文庫、『教育研修ファシリテーター』堀公俊・加留部貴行著、日本経済新聞出版社、『よくわかる学級ファシリテーション』岩瀬直樹・ちよんせいこ著、解放出版社、『元気になる会議-ホワイトボード・ミーティングのすすめ方』ちよんせいこ著、解放出版社。

にいきなりやろうとしても、なかなかうまく進まない可能性も高い。福島先生は、HRなどで日頃から生徒に身近な話題をテーマに話し合うことを勧める。「例えば、大学の入試がなくなるとしたら賛成? 反対? など、何でもいんです。明日こんなこと話し合うから調べておいて、というだけでも生徒は話しやすくなります。日頃から活発に話をするのが普通という状況を作っていくことが大切です」

みんなのオンライン予備校 受験サプリー。受験勉強に役立つツールが盛りだくさん。「大学入試過去問」や「センター問題集」などのツールを無料で利用できます。さらに、月額980円で学年別・レベル別の講義動画も見放題。100大学の過去問、やり放題! センター問題集、最新5年分やり放題! 月額980円で、プロ講師の授業が受け放題!